

No.4

社会課題パート1

子ども食堂と私たちの地域・社会

2023.10.23



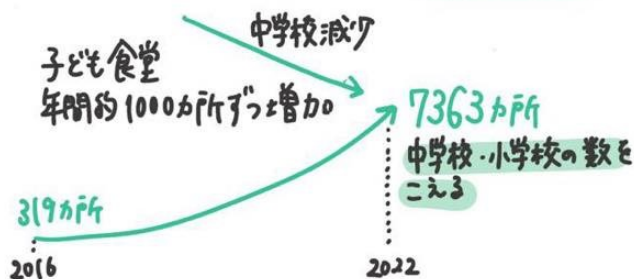
湯浅 誠

認定NPO法人
全国子ども食堂支援センター
むすびえ理事

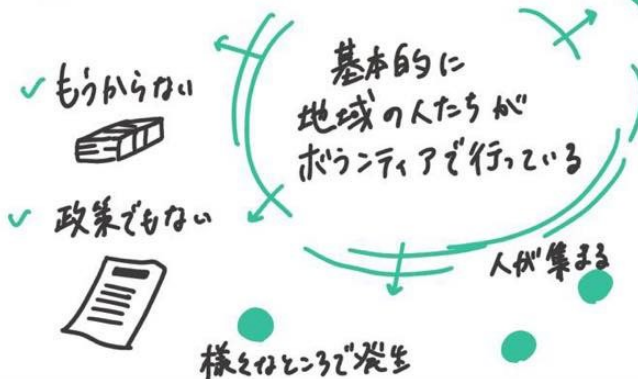
◆ 子ども食堂ってどんなところ？



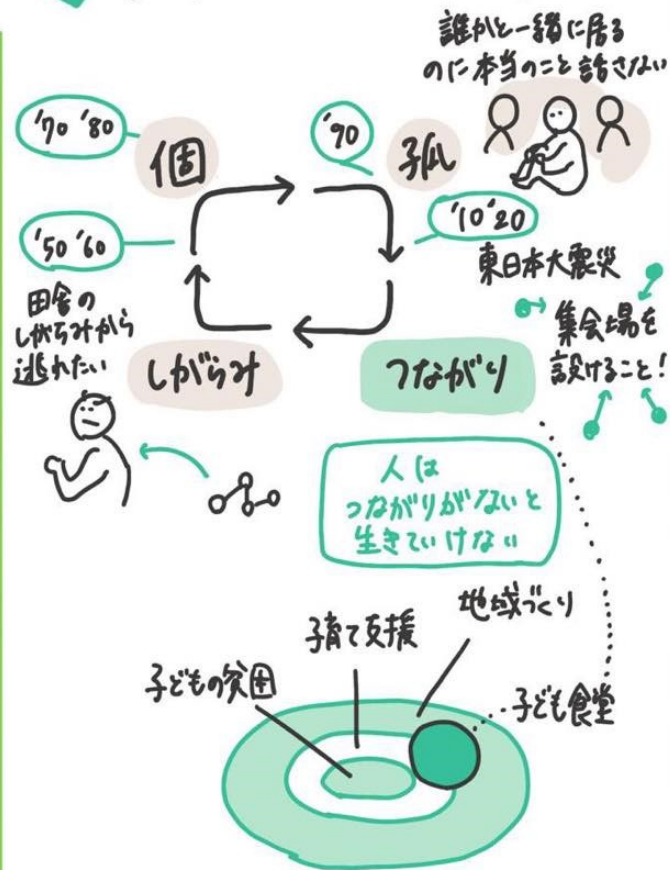
子どもを真ん中に置いた多世代交流の居場所



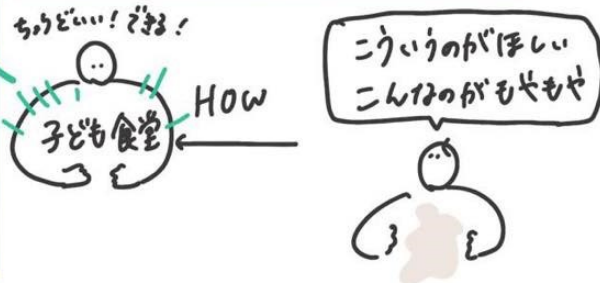
◆ なぜ"子ども食堂"をやるの？



◆ つながりのための子ども食堂



住民自治に立ち代えるもの



◆ 居場所ってどんなところ?

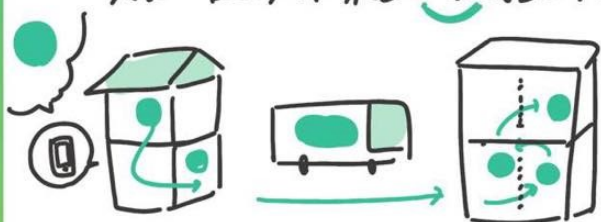
「見てもらっている」という実感が持てる

いつもお
げんぱれる、



すべての場所が居場所になることが望ましい

人は一日のうちに沢山の場を経由する



人はどこかに居場所を探し続けている

どこも
居場所

どこか
居場所

を目指していく

誰かにちゃんと見てもらえる

受け止められている

尊重されている

つながっている

と感じられるような関係性のある場のこと

◆ 居場所と貧困の関係

困っている人向けです

みなさんどうぞ

私は弱くない!
私は貧困じゃない!

ハイリスクな人が来やすい

子ども食堂の在り方

そこに行く必要性を
自問させる場
人は集まりづらい

オープンな場

まだ必要ない

誰かに何か
言われるのは?

貧困の連鎖を
断ち切る
ひとつの要素

多世代交流

Q 日本以外にも日本のような
子ども食堂の形があるのか?

各国により
何が起点に
つながるかは違う

食
アート

Q 子ども食堂知っているけれど
行ったことない。貧困の方が
行く場所というイメージを
どう払拭する?

発信の仕方

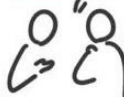
テレビCM



企業との連携



各地域のトップ
に説明



住民へ

一度ついたイメージ
を変えるのは難しい
少しずつ変わっていく

Q 20代の若者は子ども食堂に
行かない傾向がある

一番行かない
30-50代男性
20代も少ない
でも...

一度経験すると、
継続して関わること
期待できる

Q 子どものあそび場変化
社会的背景は?

90年代
バブル崩壊
なぜ起きた?

もっと
競争的
にならない
といけない

自己責任
の時代
リスクに慎重
になる

Q 大学生にできること

現場に
"居る"こと



技術の使用
サポート

